

平成 27 年度 参加と協働市民フォーラム

## 「人生を楽しくする方法」

～自分の隠れた能力を地域で活かしてみませんか？～

実施報告



平成 28 年 3 月

狛江市市民参加と市民協働に関する審議会  
狛江市市民活動支援センター運営準備委員会  
狛江市



## 目的

狛江市の市民参加と市民協働の推進・発展、また市民の理解・認識を高め、市政に対する関心を高めることを目的とし、市民フォーラムを実施する。

## フォーラムテーマ

「人生を楽しくする方法」～自分の隠れた能力を地域で活かしてみませんか？～

## 主催／企画運営

狛江市市民参加と市民協働に関する審議会  
狛江市市民活動支援センター運営準備委員会  
狛江市

狛江市市民活動支援センターの4月開館を見据え、地域活動をしている4人の方からのお話、意見交換を通じて、ボランティア・地域活動について考えるきっかけとする。

## 日時・場所

平成28年1月23日（土） 午後2時～4時45分  
狛江市防災センター4階会議室

## 出席者数

- ・一般参加者：52人
  - ・発表者（ゲスト）：4人
  - ・市民参加と市民協働に関する審議会委員：13人（うち1人は発表者を兼ねる）
  - ・市民活動支援センター運営準備委員：7人
  - ・市民活動支援センター愛称の当選者：7人
  - ・市事務局：2人
- 計 84人

## 当日の流れ

- 14:00 開会あいさつ <市民参加と市民協働に関する審議会会長>
- 14:05 市民活動支援センターの紹介 <企画財政部政策室長>
- 14:10 活動発表（4人のゲスト）  
－ 座席の移動・休憩 －
- 15:30 4つのグループに分かれてフリートーク
- 16:10 各グループから報告
- 16:30 市民活動支援センター愛称発表、当選者へ賞品贈呈
- 16:45 閉会

◇平 美和さん（狛江フェスティバル実行委員会）

狛江駅前三角地でビアガーデンを企画運営！



狛江フェスティバルとは、夏に狛江駅前三角地と泉龍寺の2会場で開催されているビアガーデンや親子向けイベントのお祭りで、すべてボランティアの市民が企画運営している。

参加したきっかけは、ステージに出演するパフォーマンスグループとしてであったが、狛江フェスティバルは関わる人すべてが実行委員。一人ひとりが責任をもって協賛金を集めたり、会場設営や片付けもしなくてははいけない。大変ではあるけれど、みんなで作り上げていくという趣旨に賛同して、参加した。

素人ながら知恵をしぼってステージを自分たちでつくり、また初めて協賛をお願いしに行くという経験もした。多くの方のご協力や善意に触れ、絶対に成功させなくてはと思った。

狛江フェスティバルで得た出会いと経験は、自分にとってとても大きなものだった。自分の力は活かせるという自信がついた。誰でも経験が無くてもまず飛び込んでいけば、何かしらの力になれるのだと思う。



◇栗山 健一さん（狛江市終戦 70 周年平和祈念事業実行委員会）

終戦から 70 年、平和を願って。



昨年は、終戦から 70 年の節目の年であり、一昨年（2019年）の 11 月から実行委員会を開催し、様々な平和祈念事業を企画運営した。

70 年前の 5 月 25 日に狛江に空襲があったという事実を、自分をはじめ多くの方が知らず、その日にみんなで手をつないで輪をつくってもらおうという話になった。市内を回って、多くの市民の方が喜んで協力してくださり、とてもありがたく、うれしかった。

8 月にはエコルマホールでイベントを行い、542 名もの方にいらしていただいた。エレベーター係を担当していたが、「がんばっているね」と声をかけられ、それが励みになった。

ボランティアなどに一步踏み出すのは、なかなか難しいことで自分もそういうのは苦手なタイプだったが、意外とスムーズに進んでいった。日中は仕事があるので、昼間集まりがあるとき参加できないこともあり、その際は他の委員の方をお願いした。この活動をとおして、様々な職業や立場の委員の方と出会えたことが最大のメリット。

不安はあってもやってみたいという気持ちがあれば、踏み込んでいくことが自分にプラスになる。自分の可能性を試してみるのもいいのでは。



## ◇本橋 芳久さん（狛江おもちゃ病院）

まちのおもちゃのお医者さん！



おもちゃ病院は日本全国にあり、狛江おもちゃ病院は平成 25 年に設立された。

最初はあいとぴあセンターで開院し、知名度がなかったので、公民館や地域センター等にポスターを貼らせていただいた。月 2 回の開院の他に、児童館等で臨時に開院したり、あいとぴあセンターの催しにも参加し、広く周知活動もしている。

昨年の夏からは、ビン・缶リサイクルセンターに引越しをし、狛江駅から近いということもあり、市外からのお客さんも来てくれるようになった。現在は、市内ドクター、市外顧問、受付会員で活動している。

昔からおもちゃ病院の活動に興味があったので、おもちゃドクターの講座を受け、狛江にできたことを知って加わった。非常に苦労して直すこともあるが、渡したときの笑顔が励みになっている。

毎回いろいろなおもちゃに出会い取り組み、月 2 回の開院日をとても楽しみにしている。本業の仕事を辞めてもこの活動があるので、一つの楽しみとなるなど最近感じている。

みなさんもぜひお気軽にいらしてみしてほしい。



## ◇杉本 利一さん（銀行町親和会）

小中学生の登下校を見守り続けて 8 年。



最初に町会の会長が小学生の登下校のパトロールをやってみようと言ったのがはじまり。孫が狛江第三小学校に通っていたのもあり、その近くでやることになった。

車が来ると子供たちを「はい、ストッパー」と手でとめて、車が通り過ぎると「はい、オッケー」と言って誘導している。

今から 8 年前に始めて、最初は怪訝そうだったがだんだん慣れてきて子どもたちから元気にハイタッチしてくるようになった。

最近では、車も自然に停まってくれるようになり、駅へ向かう出勤中の会社員の方たちも挨拶してくれる。風邪をひいて休むと、次の日逆に心配されることもある。

ある時、中学生が卒業式の日になんげ自分のところへ来て、「3 年間ありがとうございました。」と言ってきて、とてもうれしかった。

子供たちのメッセージが書かれたものもいただき、自分の生涯の宝物。

「いつまでやるの？」とよく聞かれるけれど、できなくなるまでは続けていこうと思う。



## フリートーク、報告

< 4つのグループでそれぞれ4人のゲストを囲み自由に意見交換 >

- ・ Aグループ：狛江フェスティバル実行委員会の平美和さん
- ・ Bグループ：狛江市終戦 70 周年平和祈念事業実行委員会の栗山健一さん
- ・ Cグループ：狛江おもちゃ病院の本橋芳久さん
- ・ Dグループ：銀行町親和会の杉本利一さん

< 各グループの報告 >

### ◇Aグループ

- ・ 狛江駅前三角地を有効活用すべき。駅から近いので、狛江フェスティバルのようなイベント開催により、市外の方に狛江を知ってもらいきっかけとなるとよいのではないかと。
- ・ ボランティアをしていく中で、様々な取組みを若い世代に伝え、受け継いでいけるとよい。
- ・ 市内の限られた事業者にとって、気持ちはあっても市内の多くのイベントに協賛することは大変なこと。市外へも賛同を呼びかける等、様々な方法を考えることも必要。
- ・ 市民活動支援センターは、具体的には行ってみたいとわからないと思うので、開館したら気軽にのぞきに行ってみたい。
- ・ 新しい活動に一步踏み出すのは難しいので、市民活動支援センターを訪れた人には、職員が後押ししてくれるとよい。



### ◇Bグループ

- ・ 実行委員会に参加して多くの方と知り合えたことがよかった。
- ・ 市民活動支援センターは、ボランティアにとっての横のつながり、またボランティアの情報の発信拠点となるべき。
- ・ ボランティア活動は継続が難しい。その活動団体のリーダーとなる人が率先して指導力を発揮することが継続に結びつくのではないかと。
- ・ いろいろなボランティアがあるので、自分に合った活動をすることが大切。
- ・ ボランティアは、人とのつながりを大事にすること、また自分自身を高めるきっかけとなる。人のためではなく自分のため。
- ・ 一步踏み出す勇気やきっかけが必要。市民活動支援センターを有効活用しよう。



### ◇Cグループ

- ・皆さんそれぞれの活動を楽しみながらやっている様子がよく感じられた。
- ・おもちゃ病院では手先を使うので、脳の活性化等にもつながっている。
- ・活動を続けていく上で困ることもあり、他の団体とのマッチングや新たな解決方法の模索等、市民活動支援センターができることで、継続支援にもつながるのではないかと。
- ・楽しいと思うことや感謝されることが、活動を続けていくモチベーションになる。



### ◇Dグループ

- ・登下校のパトロールによって、子供たちとの絆が深まった。
- ・町会には見守りに対する意欲が薄い人が多く会員も少ないため、なり手がいない現状。
- ・市民活動支援センターを通じて、いっしょにやってくれる方を、広く募集できるのではないかと。
- ・ボランティアが増えていくためには、「感謝の気持ちとねぎらいの言葉」、「一歩踏み出せない人へそっと背中を押すこと」、「まず自分でトライしてみることに」が大切であると思う。



## 市民活動支援センター愛称発表、当選者へ賞品贈呈

狛江市市民活動支援センターの愛称は、  
「こまえくぼ1234」に決定！

「こまえくぼ1234」にご応募いただいた方の中から、当選者10名の方に、狛江ブランド野菜をプレゼント！



## アンケート集計結果

### <性別>

◇男性：24人      ◇女性：17人

### <年齢>

◇20歳未満：1人      ◇20代：0人      ◇30代：1人      ◇40代：2人  
◇50代：5人      ◇60代：11人      ◇70代：17人      ◇80歳以上：4人

### <職業>

◇学生：1人      ◇会社員：6人      ◇自営業：6人  
◇公務員：1人      ◇無職：19人      ◇その他：8人（NPO法人役員、アルバイト、他）

### <本日のフォーラムに参加してどうでしたか>

◇満足だった：24人      ◇どちらともいえない：6人      ◇満足とはいえない：1人  
(無回答：10人)

### <この事業を何で知りましたか>〔複数回答可〕

◇広報こまえ：18人      ◇狛江市ホームページ：3人  
◇フェイスブック・ツイッター：3人      ◇ポスター：5人      ◇チラシ：20人  
◇知り合いに誘われた：7人      ◇その他：1人

〔ポスター・チラシ・その他自由記述欄〕

あいとぴあセンター、シルバー人材センター、町会自治会回覧板、民生委員児童委員協議会、新聞折り込み、他

### <興味のある市民活動分野>〔複数回答可〕

◇防災・災害支援：17人      ◇障がい者支援：8人      ◇子育て：11人  
◇青少年：4人      ◇環境・自然：16人      ◇スポーツ：8人  
◇学習・学び：10人      ◇文化・芸術・音楽：11人      ◇地域活動：21人  
◇その他：3人

〔その他自由記述欄〕

まちづくり（都市計画）、企業と市民・地域の関係、他

### <主なご意見・ご感想>

◇フリートークの機会ができてよかった。  
◇わかりやすいお話だった。  
◇また機会があったら、このような会に参加したいと思います！  
◇それぞれの発表の方々が、組織化された仲間とともにボランティアとして活動していることに感心しました。応援していきたいですね。



- ◇フリートークで近くで多くの方が話していると、声が聞こえづらかった。
- ◇「地域活動する人・している人」は仲間を誘い輪を広げよう。近隣付き合いを広めてイベントなどに誘い出していきたい。
- ◇狛江に住んでいるので、市内の行事にはこれからいろいろ参加したいと思います。
- ◇いろいろな分野の方のお話を聞いていて感心しましたが、もう少し宣伝をしていただければ参加もできたと思います。
- ◇人生が楽しくなりました。
- ◇まずはできることからがんばってみようと思います。近所の人に誘われて来て、すてきな活動をいっしょけんめいしていらっしゃる方々のお話が聞けてよかったです。次世代の人々につなげていければいいなと思いました。

(アンケート回答者：41人)

〔フォーラム運営の委員一覧・役割〕

市民参加と市民協働に関する審議会委員		市民活動支援センター運営準備委員	
氏名	役割	氏名	役割
愛甲 悦子	記録係 (D)	楫取 静子	お茶・お菓子係
内海 貴美	記録係 (B)	栗山 和美	発表係 (B)
大塚 隆人	記録係 (C)	児崎 豊満	発表係 (D)
小川 憲一郎	進行係 (D)	土岐 毅	会場案内
奥村 隆一	開会挨拶	三島 瑞子	発表係 (C)
穴戸 泉	進行係 (B)	片岡 晋一	賞品贈呈
島本 和彦	受付	小川 啓二	センターの説明
関 幸一	進行係 (C)		
平 美和	記録係 (A)・総括		
西家 将善	会場案内		
長谷川 好道	受付		
松崎 学	進行係・発表係 (A)		
松本 和美	司会		

\* ( ) 内のアルファベットは、フリートークのグループ名

## フォーラムを終えて（委員の感想から）

- 多くの参加者が来場してくださった。
- 市民活動支援センターの愛称発表、当選者への狛江ブランド野菜贈呈をフォーラムの中で行ったことによって、より幅広い方にフォーラムに参加していただけた。
- 例年は「狛江市市民参加と市民協働に関する審議会」のみでフォーラムを実施しているが、今年度初めて「狛江市市民活動支援センター運営準備委員会」と共催した。様々な委員会や団体と共催することで、フォーラムの幅が広がると感じた。
- 参加した方が身近に感じられる題材であった。
- ゲストの活動発表は、4人それぞれ個性の伝わってくるお話で、聞く側が感情移入しやすかった。
- 一体感のあるフォーラムだった。
- 参加者から「ボランティアをもっと難しいものだと思っていたが見方が変わった」という声があり、今回のフォーラムの趣旨が伝わってよかった。
- フリートークでは、ゲストの方の活動への思い入れを聞くことができ、また他の参加者からも具体的にその活動に対する意見が出る等、活発な意見交換ができた。
- 市民活動支援センターを活用する等、フォーラムの実施方法を今後も工夫しながら取組み、さらに多くの方が参加していただけるようにしていきたい。



平成 28 年 3 月 発行

狛江市市民参加と市民協働に関する審議会 狛江市市民活動支援センター運営準備委員会 狛江市  
〔問い合わせ〕 狛江市企画財政部政策室協働調整担当 03-3430-1111（内線 2454）